

2020.05.25

セレクションの開催可否に関して

関東学生オリエンテーリング連盟
幹事長 若月 俊宏

関東学連所属の競技者の皆様

先日はセレクションの開催可否に関してアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。23大学の競技者から81件のご回答をいただき、アンケートの結果をもとに5月23日（土）に第1回関東学連臨時総会にて協議をさせていただきました。今回は総会での議論をもとに、再度ご提案をさせていただきます。各大学の皆さんには、もう一度議論の上、大学としての意見を決定していただきたいと思います。

1. アンケートの内容（再掲）

セレクションに関して、スプリント・ロングのそれぞれにおいて延期の措置がなされた場合、次のケースが考えられます。

延期後の日程において、

- ①課外活動を解禁されている大学とされていない大学がある
- ②全ての大学で課外活動が解禁されているものの、解禁のタイミングの違いによって練習期間に不公平が生じる

それぞれの場合、

- A. レースによるエリートの選出を行う
（＝参加できる大学だけで通常通りのセレを行う）
- B. 中止時と同じ措置を取る
（＝計算式により各クラブへ枠を分配する）

のどちらがふさわしいか、という意見募集です。

なお、このアンケート結果だけで何かを決定するということはありません。いただいた回答は議論深めるための材料として活用させていただきます。

2. 学連としての基本方針

まず今回の件に関して、エリート選手を選出するにあたっての関東学連としての基本方針を以下に示します。

- ・エリート選手になれる機会を、競技者全員に平等に与える
- ・地区学連の代表として、より適切に強い選手を選出する
- ・中止時の措置について、公平性は保たれているものとする

3. 大会自体の開催に関して

セレクションとしての機能の有無にかかわらず、大会自体を開催することは可能です。つまり自粛が解除されている大学とされていない大学がある（参加者の大幅な減少が見込まれる）場合も、参加可能な大学に所属する選手は出走することが可能です。例えば中止時の措置をとったとき、大学内での選手選考の参考レースとして大会を活用していただく、ということが出来ます。ただし、この場合あくまで参考レースですので、順位通りにエリートが選出されないケースも考えられます。あらかじめご了承ください。

4. ①の場合の措置（案）

Ⅰ案：中止時と同じ措置を取る

各クラブに枠を割り振り、クラブ内で選手選考を行う（男子）
前年度インカレ本線にて実績のある選手を無条件で通過とする（女子）
残った枠を全大学共通の推薦枠として選考する

Ⅱ案：地区枠を以下の3つに分けて選出する

参加できる大学向けのレースで決定する枠
参加できない大学向けの推薦枠
両方の枠に入れなかった選手向けの最終推薦枠

	Ⅰ案	Ⅱ案
メリット	・選手の実力を最もよく知る、クラブに地区枠の大半を委ね、選出を行うことから、適切な選出を行うことができる	・Ⅰ案と比較して、従来のセレクションにより近い形になることから、適切な選出を行うことができる ・クラブに対して確約枠がないことから、選手のモチベーションアップおよび地区レベルの向上につながる
デメリット	・昨年度の成績に基づきクラブに枠を分配することから、正確には現在の実力を反映された枠数が分配されるわけではない。	・課外活動解禁の有無により、異なる対応を強いられるという不公平が生じる ・レースで決定する枠と推薦枠の比率の決め方を議論する必要がある ・大学の判断タイミングにより枠の比率が大きく変動する ・推薦枠が大幅に増える可能性もある（その逆も然り）

以上、2つの案から①の場合の措置を決定します。各大学で議論していただいた上で、『どちらの案に賛成か』大学としての意見を決めてください。**5月31日（日）**を目処に学連にて投票を行い、最終的な決定を下します。（他の案の採用を見送らせていただいた理由に関しては後述します。）

各案の詳細 2020.05.26追記

I 案：中止時と同じ措置を取る

▼セクション中止時の措置（2020.05.02）

<https://drive.google.com/open?id=1EaievB-EeACsVLMtqyGURGUB4oU0k0d0>

*なお、今回の中止時の措置に関して「ロングセクションにおける参照レースについての特例措置」と「スプリントセクションにおける規約草案」は、先日行われた第1回関東学連臨時総会にて**全会一致で承認**されました。

II 案：地区枠を以下の3つに分けて選出する

①参加できる大学向けのレースで決定する枠

②参加できない大学向けの推薦枠

→前年度インカレロングの成績に基づき上記2種類の枠の比率を決定

③両方の枠に入れなかった選手向けの最終推薦枠

→全体の枠の10%程度を想定

*具体的な計算式については、議論が必要である。

5. ②の場合の措置（案）

I 案：レースによるエリートの選出を行う

②の場合についてはこの案のみを学連から提案させていただきます。各大学で議論していただいた上で、『この案を承認するか』大学としての意見を決めてください。**5月31日（日）**を目処に学連にて投票を行い、最終的な決定を下します。（他の案の採用を見送らせていただいた理由に関しては後述します。）

6. 他の案に対する学連の回答

アンケートでは前述した案以外にも様々な提案をいただきました。ご協力ありがとうございました。学連で協議した結果、採用を見送らせていただいた理由について、学連としての回答をさせていただきます。

【①の場合】

・通常通りレースによる選出を行う

→大学の措置の違いによりエリートになるチャンスが失われる選手がいるのは、学連の対応としては相応しくない。

・中止時の措置は学連の負担が大きい

→各クラブに分配された枠については選考をクラブに委ねる。推薦枠の選手選考については第三者（実行委員会）に決定を委ねる。

・見通しがわかるまで議論を先延ばしするべき

→外活動解禁される大学が出てきてからでは、それぞれの利益を考えるようになってしまい議論が平行線になってしまふことが懸念される。全大学の自粛が解禁されていない今のタイミングで公平な議論をしたい。

【②の場合】

・レースによる選出は練習期間に不平等が生じる

→この場合のレースによる選出は、学連としての方針（「エリート選手になれる機会を競技者全員に平等に与える」「地区学連の代表として、より適切に強い選手を選出する」）を十分に満たしているものとする。練習期間の不平等が生じていたとしても、その日の実力・結果で選出するのが本来のセレクションの姿である。

・練習解禁のタイミングを学連で制御・統一する

→オリエンテーリングの振興とは逆行する措置であるとともに、個人レベルの行動までは学連としては制御できず、学連全体のレベルが低下してしまう可能性も否めない。また、この措置をとった場合、新歓活動が行えなくなる可能性がある。

7. 各大学へのお願い

以下の2件について、各大学で議論していただいた上で大学としての意見を決定してください。ただし、**期限は5月30日（土）まで**とさせていただきます。

【①の場合】

課外活動を解禁されている大学とされていない大学があるとき

Ⅰ案：中止時と同じ措置を取る

Ⅱ案：地区枠を以下の3つに分けて選出する案

→どちらがより適切な措置であるか

【②の場合】

全ての大学で課外活動が解禁されているものの、解禁のタイミングの違いによって練習期間に不公平が生じるとき

Ⅰ案：レースによるエリートの選出を行う

→この案について承認するか

また、中止時の措置を取る場合は各クラブに分配された枠の通過者リストの正当性の確保を強く要望します。推薦枠に有力選手を回す等の行為を避け、スポーツマンシップに則った選出を期待します。

ご不明な点は、各校渉外までお問い合わせください。

関東学生オリエンテーリング連盟
幹事長 若月 俊宏